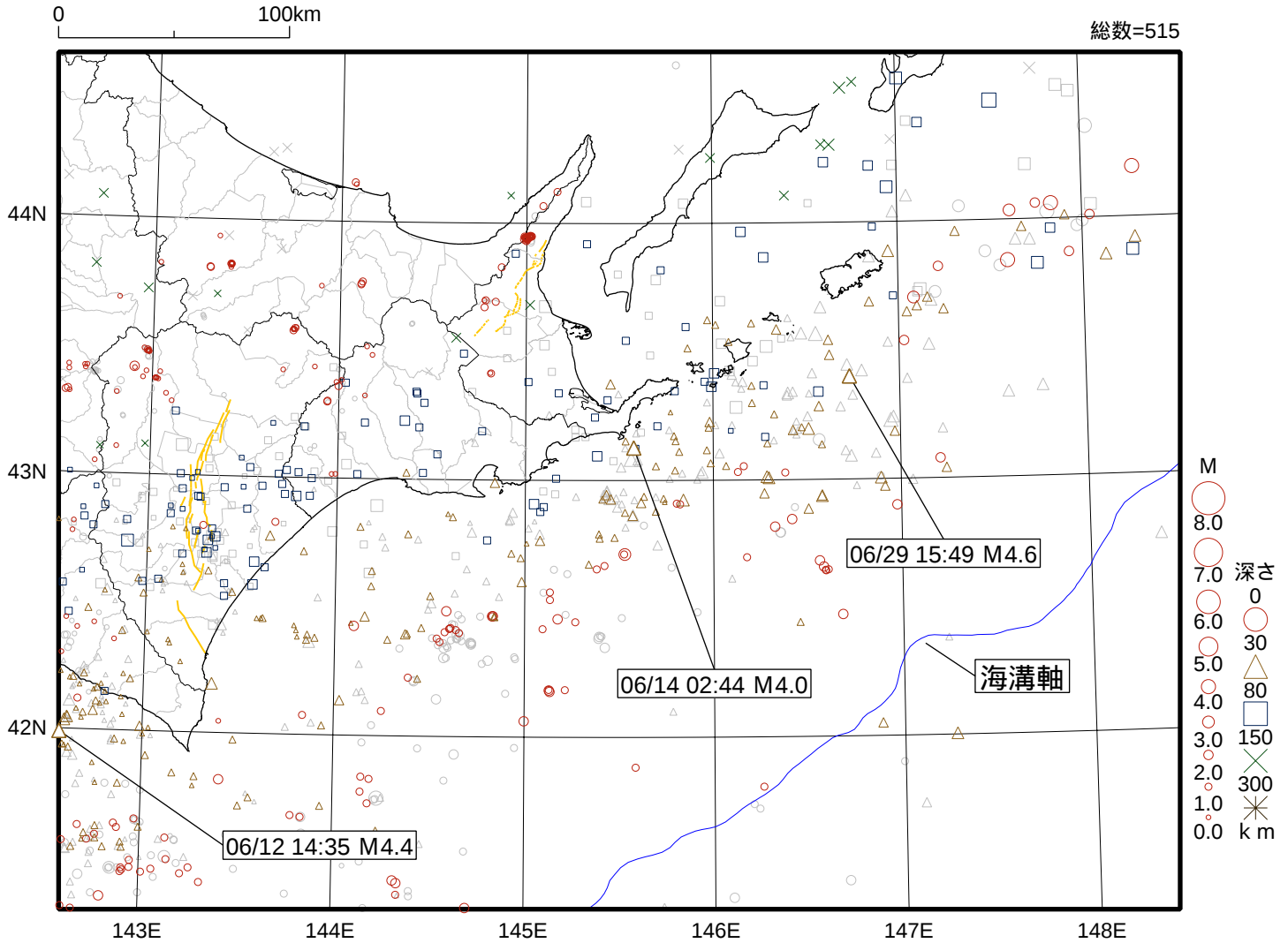


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2024年6月1日～2024年6月30日

震央分布図

釧路地方気象台



地震概況（2024年6月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(先月5月は8回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

14日02時44分、根室半島南東沖を震源とする地震(M4.0、深さ80km)により、標茶町、浜中町、根室市、標津町、別海町で震度2を観測したほか、鶴居村、中標津町、羅臼町で震度1を観測しました。

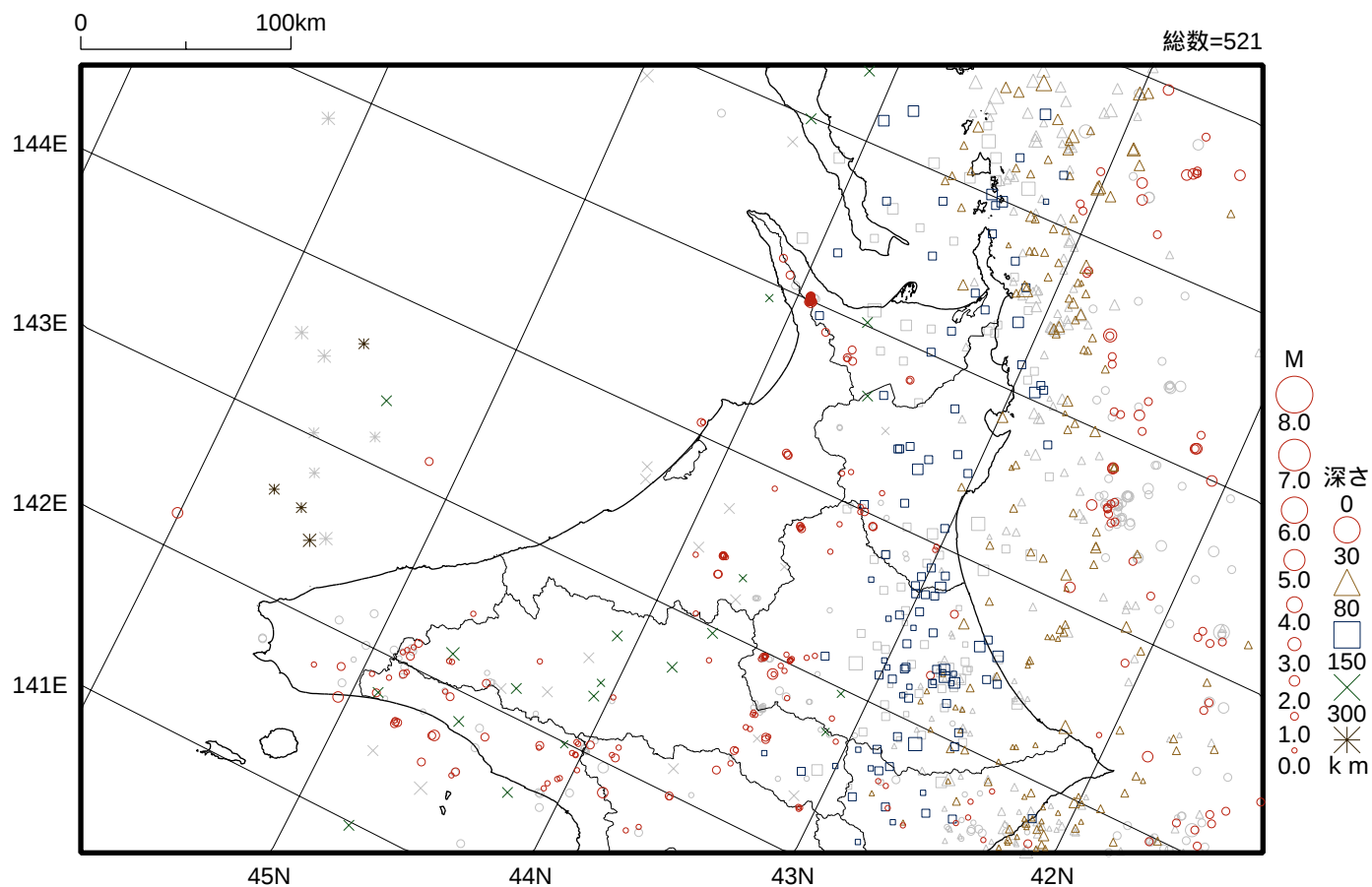
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html

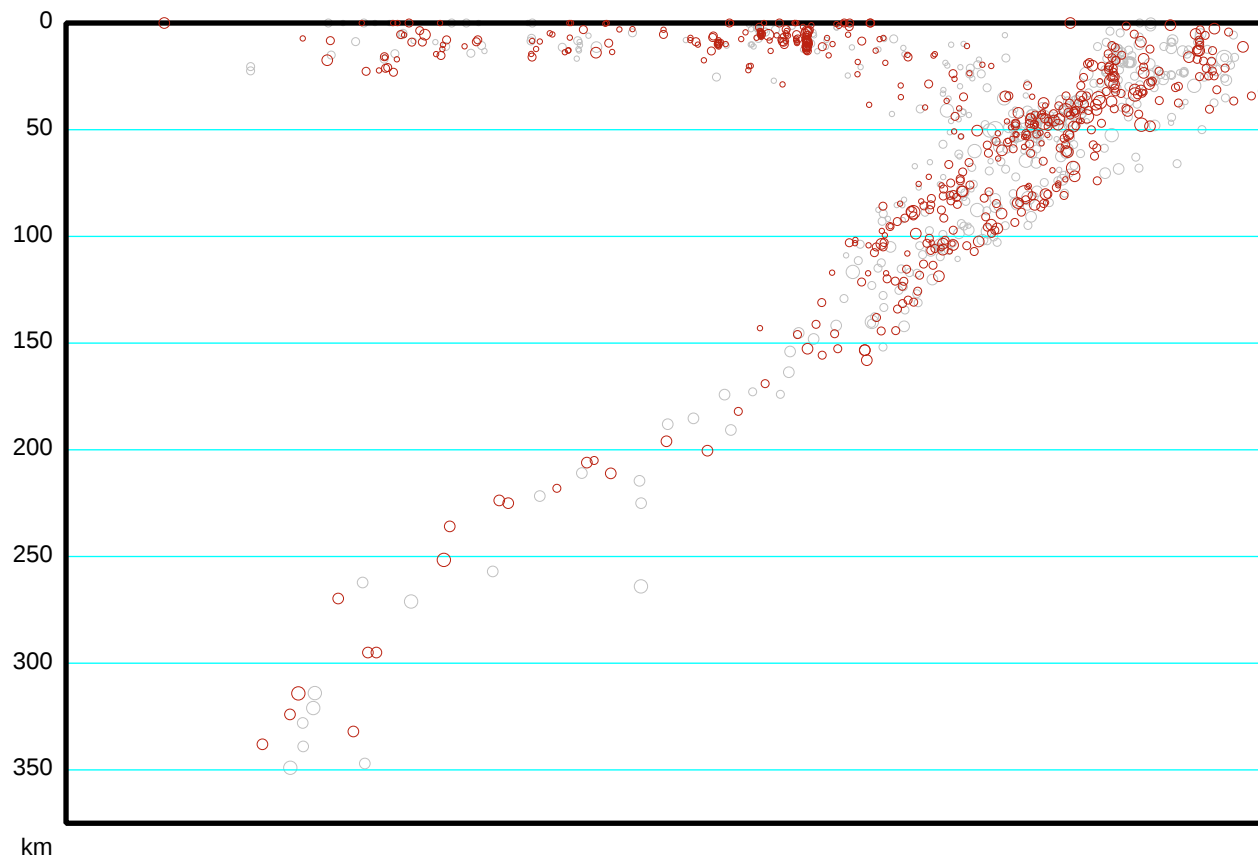
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2024年6月1日 ~ 2024年6月30日

震央分布図



断面図

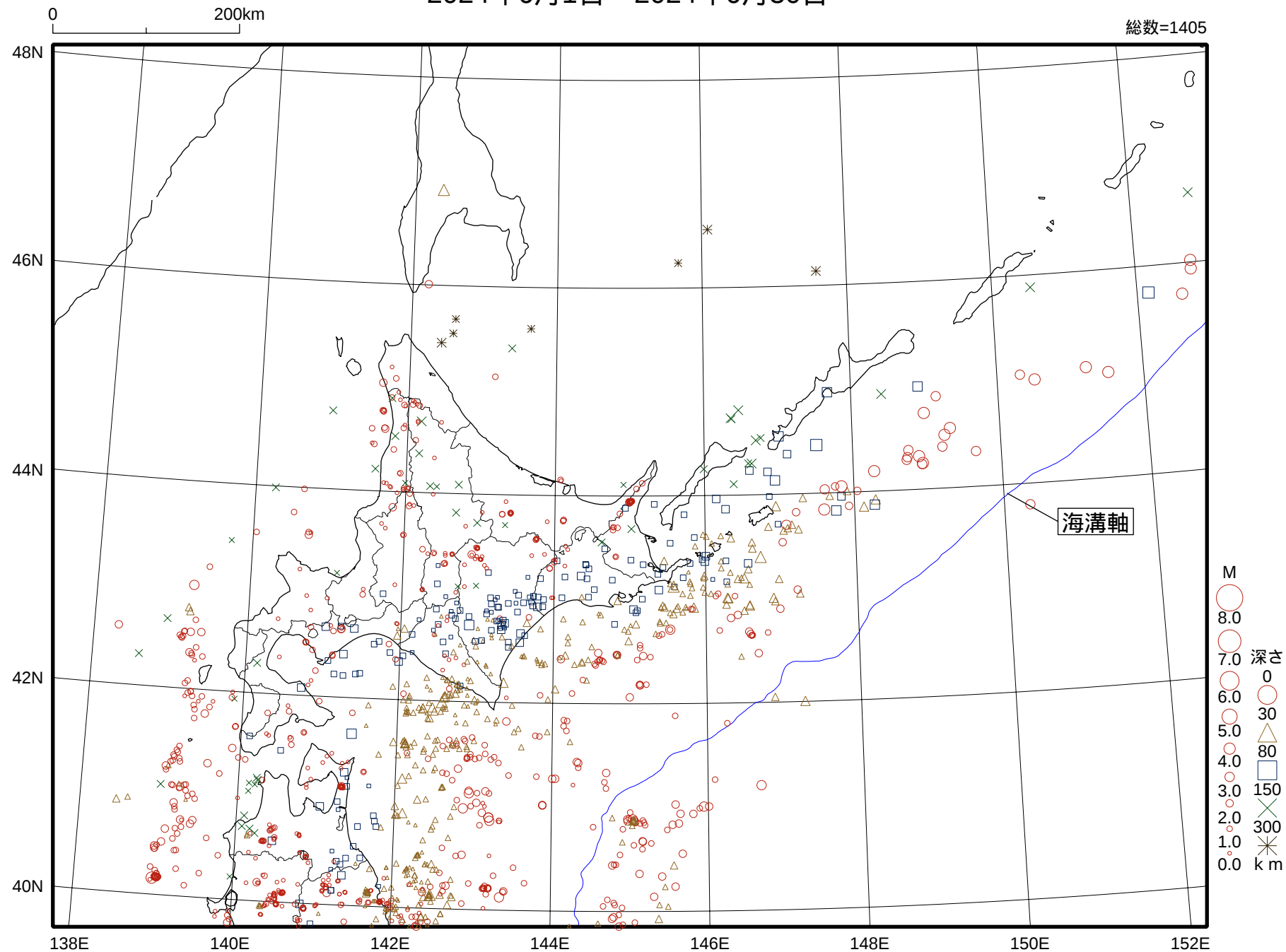


震央分布図

北海道の地震活動図

2024年6月1日 ~ 2024年6月30日

総数=1405



釧路・根室・十勝地方で震度 1 以上を観測した地震の表（2024年6月）

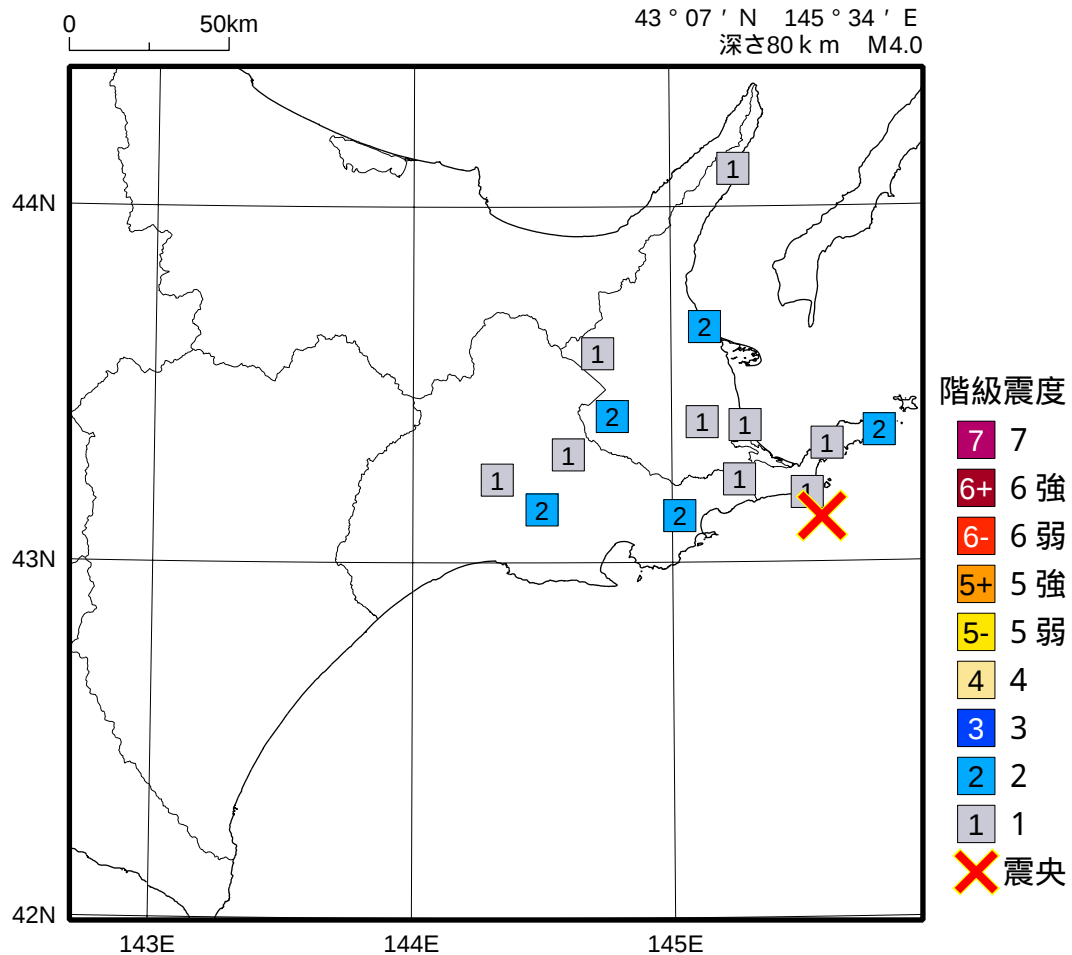
年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（km）	規模（M）
2024年 6月12日 十勝地方	14時35分 震度 1	浦河沖 帯広市東 4 条 (06) 帯広市東 6 条 * (07) 十勝清水町南 4 条 (06) 芽室町東 2 条 * (07) 幕別町忠類錦町 * (14) 豊頃町茂岩本町 * (06) 本別町北 2 丁目 (07) 本別町向陽町 * (07) 浦幌町桜町 * (14) 更別村更別 * (07) 十勝大樹町東本通 * (08) 広尾町並木通 (10) 広尾町白樺通 (12)	41 ° 59.3 ' N	142 ° 33.9 ' E	65 km	M4.4
2024年 6月14日 釧路地方 根室地方	02時44分 震度 2 震度 1 震度 2 震度 1	根室半島南東沖 浜中町茶内 * (19) 標茶町塘路 * (16) 標茶町川上 * (09) 鶴居村鶴居東 * (12) 標津町北 2 条 * (16) 別海町西春別 * (17) 根室市瑯瑁 * (15) 中標津町養老牛 (10) 羅臼町岬町 * (11) 別海町常盤 (14) 別海町本別海 * (10) 根室市牧の内 * (06) 根室市厚床 * (14) 根室市落石東 * (07)	43 ° 07.5 ' N	145 ° 34.5 ' E	80 km	M4.0
2024年 6月29日 根室地方	15時49分 震度 1	北海道東方沖 別海町常盤 (06) 根室市落石東 * (12) 根室市瑯瑁 * (09)	43 ° 24.0 ' N	146 ° 43.8 ' E	46 km	M4.6

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
()内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

2024年 6月14日02時44分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～「津波フラッグ」について～

「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、「津波警報等」という）が発表されたことをお知らせする旗です。津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

津波フラッグは、視認性や色覚の多様性を重視した上で外国人へも配慮し、海からの緊急避難を知らせる意味で海外でも用いられている「赤と白の格子模様」の旗としています。この旗は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです。



●利用上の注意点

- 津波フラッグが用いられる場所は、海水浴やマリンスポーツなどを行う人がいる海水浴場等の海岸です。
- 津波フラッグの掲示は、砂浜や海水浴場の監視台等においてライフセーバーや監視員が振る、監視台や海岸沿いの施設に掲示するなどの方法が用いられます。
- 津波フラッグの伝達実施者の安全が確保されない場合、津波フラッグの掲出は行われません。
- 全国的には、海水浴場での津波フラッグの導入は少しずつ広がりつつある状況ですが、津波フラッグが導入されていない海水浴場や、運用されない時間や期間もあります。
- 海水浴場で強い揺れや弱くても長い揺れを感じた後は、津波フラッグを見かけずとも、速やかに海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難してください。

●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

○津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



※U旗は右図のように他の国際信号旗と組み合わせることで、別の意味になることがあります。



貴船の進路に
危険あり



医療の援助
を求む

UW旗



安全な航行をお祈りする